

第2回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概 要)

第2回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会において、北海道の木材需給の状況など活発な意見交換が行われました。主な意見につきましては「3」のとおりです。

1. 日時

平成25年10月3日（木曜日） 14時00分～16時00分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 主な意見

- 国有林材の委託販売（一般公売）を見ると、北見、帯広地区は需要が旺盛な反面、旭川、函館地区は芳しくない。木材需給及び価格の安定化の観点からも、委託販売結果の分析を行い、安定供給システム販売も含め、地区毎の供給にどのように反映させるべきか検討が必要。
- 夏場の天候不順もあり原木が十分出てきていない中、帯広地区では加工工場も増えたため原木の不足感があり年度内は続くと思われる。このため、国有林材が臨機応変に市場に出てくることを期待。
- 民有林も原料材の需要不振に困っており、木質バイオマス燃料の需要に期待しているものの、具体的には来年度以降の動きとなるとと思われる。
- 原料材について、紙需要の減退などから今後の需要動向が気になるとともに、需要促進に繋がる対策の検討が必要。
- 道産材の供給量は今後増加するため、トドマツ、カラマツの付加価値の向上とA～D材がすべて需要に繋がる必要がある。
- 林業技術者の育成を図るため、国有林の取組やフィールドを提供するなど、関係機関と連携した民有林支援が重要。
- 低コスト化に向け国有林の路網整備の果たす役割は大きいことから、引き続き森林共同施業団地の推進が重要。

4. 検討結果

道内の地域によって多少丸太の需要動向等に差はあるが、道内の木材需給状況や各委員の発言をまとめると、現時点で今すぐ国有林材の供給調整を行う必要性はないと考えている。

次回委員会においては、原料材の需要動向についても話題とする。